

令和2年度対日理解促進交流プログラム
「カケハシ・プロジェクト」 （カナダ）

最終事業報告書

業務実施期間 令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

令和 4 年 5 月 31 日

一般財団法人 日本国際協力センター

I 実施業務概要

1. 業務実施期間： 2020 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
2. 実施業務項目
 - (1) 外務省及び国内外の関係機関との事業実施にかかる連絡調整、情報共有
 - (2) オンラインプログラムの企画・運営 ※ 一部オンラインプログラムは APFC (Asia Pacific Foundation of Canada) 主催で実施された。
 - オンラインプログラムの企画
 - バーチャルツアー、オンライン講義、オンライン学校交流等オンラインプログラムに係る手配、関係者との連絡調整
 - 参加者の募集、とりまとめ
 - Zoom Link の発行 参加者への送付
 - 関係者とのリハーサル
 - 個別の案件実施に係るプレスリリースの発出
 - オンラインプログラム当日のプログラム運営（プログラム進行統括、Zoom 操作、時間管理、出欠確認、司会進行、ファシリテーション等）
 - 通訳の手配
 - 講師との連絡調整（依頼状発出、謝金支払い等）
 - アンケートの実施、とりまとめ
 - 報告書の作成
 - オンラインプログラムに関する広報・フォローアップ管理業務 等
 - (3) 上記諸手配に係る経費の支払い
 - (4) 業務完了報告書・会計報告書の作成、提出

II 業務実施状況

1. 概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」は、将来を担う人材を米国・カナダとの間で招へい・派遣し、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策等に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また日本の外交姿勢や魅力について被招へい者・被派遣者自らに積極的に発信してもらうことで対外発信力を強化し、我が国の外交基盤を拡充することを目的としている。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、国境を越えた人の往来に制限がある中、当センタ

ーは、実際の招へい・派遣プログラムに代わるオンラインプログラムにおいて、プログラム目的にあった参加者の募集・選考、プログラムの企画・運営を担当し、オンラインでの講義、視察・意見交換、文化体験、学校交流等を通して、日本の魅力をカナダの参加者へ紹介し、日加両国の相互理解、関係構築を推進すべく業務を実施した。

なお、別途提出済の状況進捗表の人数と、この最終報告書に記載の総計人数とは一致しない。(状況進捗表では、カケハン同窓生がプレプログラムにも参加した場合、ダブルカウントしている。)

(1) 招へいプログラム（オンラインプレ招へい）

カナダの高校生、大学生、大学院生、社会人 157 名に対し、オンラインによるプレ招へいを行った。2020 年度（令和 2 年度）予算によるオンラインプレ招へいプログラムの実施時期は 2021 年 6 月～2022 年 3 月。

タイトル	対象	カナダ人数	実施日	学校名／団体名
1. カナダ高校生招へい （モスクロップ中等教育 学校）①	高校生	25 名	2021/06/08	モスクロップ中等教育学校
2. カナダ高校生招へい （モスクロップ中等教育 学校）②	高校生	25 名	2021/06/11	モスクロップ中等教育学校
3. ジャパンボウル招へい （白馬高校）	高校生 大学生	12 名	2021/07/06	
4. 若手リーダー招へい	社会人	18 名	2021/09/16	
5. 日本語弁論大会成績優 秀者招へい（神奈川大学）	大学生 大学院生	19 名	2021/09/17	
6. 大学生招へい（オタワ 大学、トロント大学）（東北 大学、神田外語大学）	大学生	16 名	2021/09/23	オタワ大学、トロント大学
7. 大学生招へい（アルバ ータ大学）（名城大学）	大学生	16 名	2021/09/25	アルバータ大学

8. カナダ高校生招へい (モスクロップ中等教育学校) ③	高校	24 名	2022/03/09	モスクロップ中等教育学校
9. 日本語弁論大会成績優秀者招へい (神奈川大学)	大学生 大学院生	2 名	2022/03/15	
	総計	157 名		

(2) 派遣プログラム (オンラインプレ派遣)

日本の大学生 33 名に対し、オンラインによるプレ派遣プログラムを行った。2020 年度 (令和 2 年度) 予算によるオンラインプレ派遣プログラムの実施時期は 2021 年 9 月。

タイトル	対象	日本人数	実施日	学校名/団体名
1. 大学生派遣 (オタワ大学、トロント大学) (東北大学、神田外語大学)	大学生 日本	33 名	2021/09/23	東北大学、神田外語大学
	総計	33 名		

(3) フォローアッププログラム (オンライン FU)

カナダ・日本の高校生、大学生、大学院生、社会人 124 名に対し、オンラインによるフォローアッププログラムを行った。2020 年度 (令和 2 年度) 予算によるオンラインフォローアッププログラムの実施時期は 2020 年 11 月～2021 年 6 月。

タイトル	対象	人数	実施日	学校名/団体名
1. カケハシ・プロジェクト同窓会「コロナ時代の国際交流」第 1 回	高校生 大学生	28 名 (カナダ 4 名、日本 24 名)	2020/11/08	
2. カケハシ・プロジェクト同窓会「コロナ時代の国際交流」第 2 回	高校生 大学生	17 名 (カナダ 4 名、日本 13 名)	2020/12/06	
3. 日米加同窓会	高校生 大学生 大学院生 社会人	40 名 (カナダ 26 名、日本 14 名)	2021/01/15	
4. (APFC 主催) カナダ同窓会	大学生 大学院生 社会人	32 名 (カナダ 28 名、日本 4 名)	2021/05/13	

5. 同窓生主催 同窓会(ホームタウンバーチャルツアー)	大学生 社会人	7 名(カナダ 3 名、日本 4 名)	2021/06/05	
	総計	124 名(カナダ 65 名、日本 59 名)		

2. プログラム内容

(1) 招へいプログラム(オンラインプレ招へい)

オンラインプレ招へいプログラムでは、2020 年 11 月に実施した全カケハシ同窓生対象の同窓会プログラムに始まり、様々なプログラムを実施した。若手リーダー招へいプログラムでは、カケハシ同窓生から、カケハシ・プロジェクトでの体験と帰国後の活動についての報告のあと、小グループに分かれて意見交換を行った。大学生、高校生の学校交流プログラムでも、同世代の若者が学校紹介やコロナ禍の学校生活への影響、オリンピック開催、環境問題等の議論を通じて友好を深めた。そのほかにも、日本語弁論大会成績優秀者プログラムでのオンライン交流などを実施した。いずれも、参加者の満足のいくように、インタラクティブな内容で実施した。

(2) 派遣プログラム(オンラインプレ派遣)

オンラインプレ派遣プログラムでは、カナダへ派遣される予定であった、東北大学、神田外語大学が、2021 年 9 月に、オタワ大学、トロント大学の学生と、気候変動や SDGs 等の地球規模の課題解決をテーマにオンライン交流を行い、友好を深めた。

(3) フォローアッププログラム(オンライン FU)

フォローアップ(FU)プログラムについては、カケハシ同窓会実行委員会が主体的に企画運営したオンラインプログラムを 2 回実施した。また、ホームタウンバーチャルツアーなどオンラインプログラムを実施し好評を博した。

3. 参加者アンケート結果

(1) 招へいプログラム(オンラインプレ招へい、)

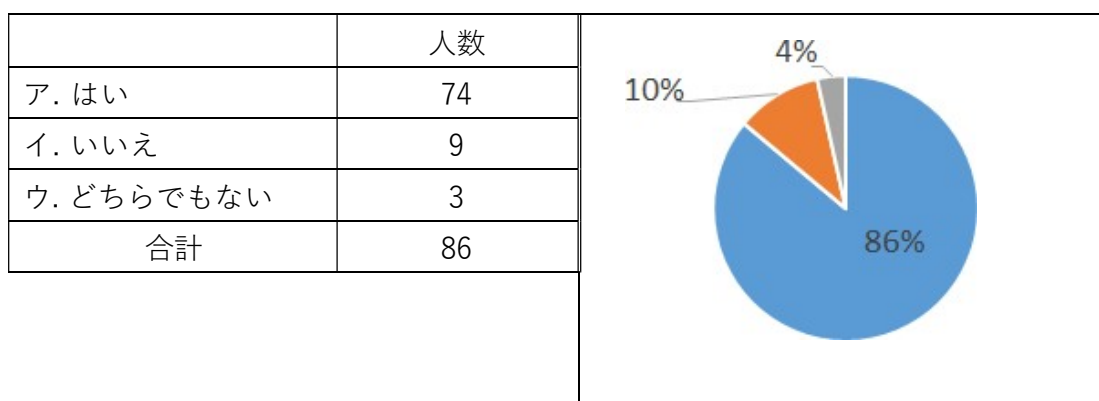
オンラインプログラム実施後にプログラムに関するアンケートを実施した。結果カナダの参加者(学生/社会人を含む)のうち、86 の回答があった。

【学校交流後アンケート】

1. オンライン交流に関する意見

(1) コロナ禍で渡航ができない中、オンラインで日本人や他の参加者と交流する機会是有効だと考えますか。

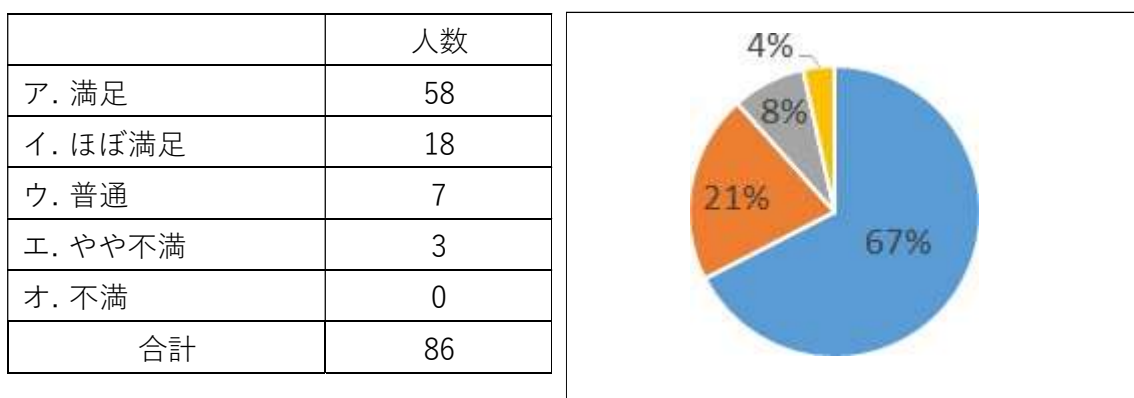
■ ア. はい ■ イ. いいえ ■ ウ. どちらでもない



【プレ・プログラムについて】

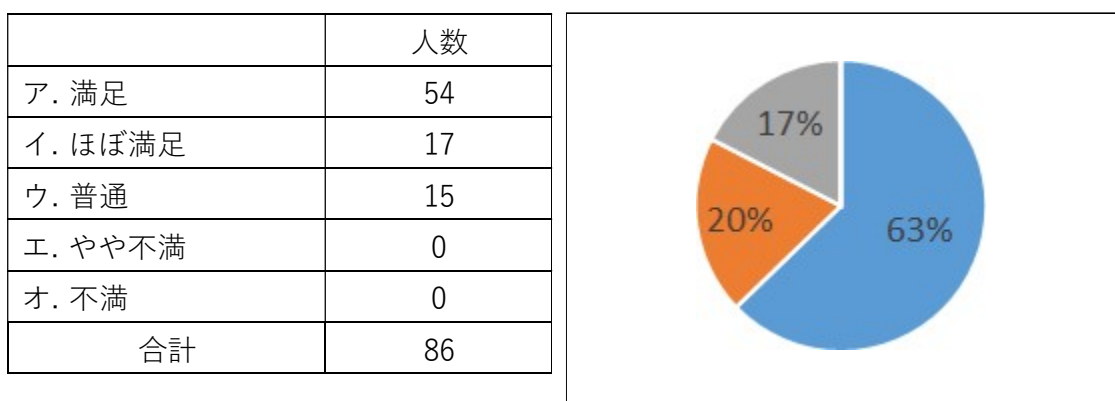
(2) 今回のプレ・プログラムへの満足度を評価してください。

■ ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
■ エ. やや不満 ■ オ. 不満



(3) プログラム内容は日本へ訪問する前の事前学習として役に立ちましたか？

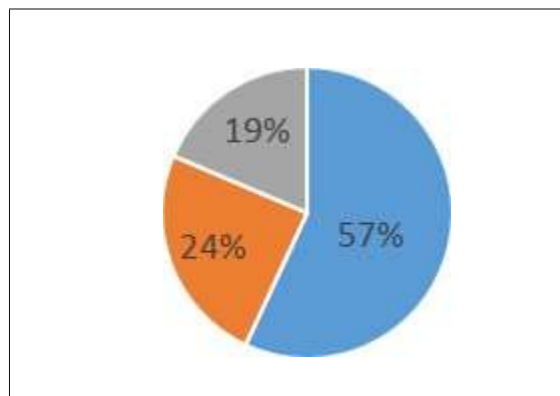
■ ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
■ エ. やや不満 ■ オ. 不満



(4) プレ・プログラムに参加後、訪日への期待は高まりましたか。

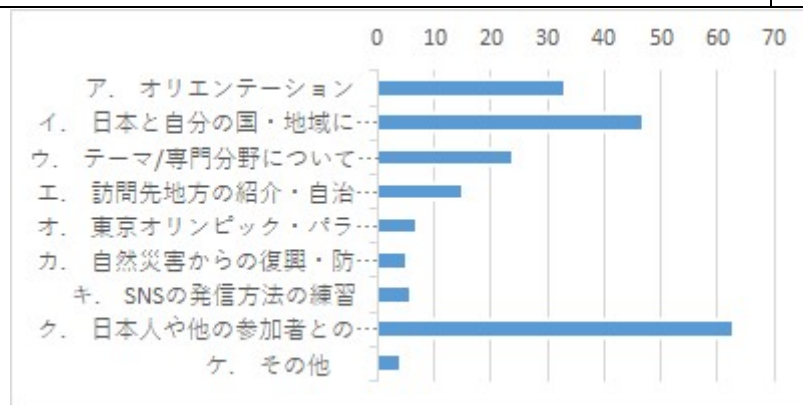
■ ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
■ エ. やや不満 ■ オ. 不満

	人数
ア. 満足	49
イ. ほぼ満足	21
ウ. 普通	16
エ. やや不満	0
オ. 不満	0
合計	86



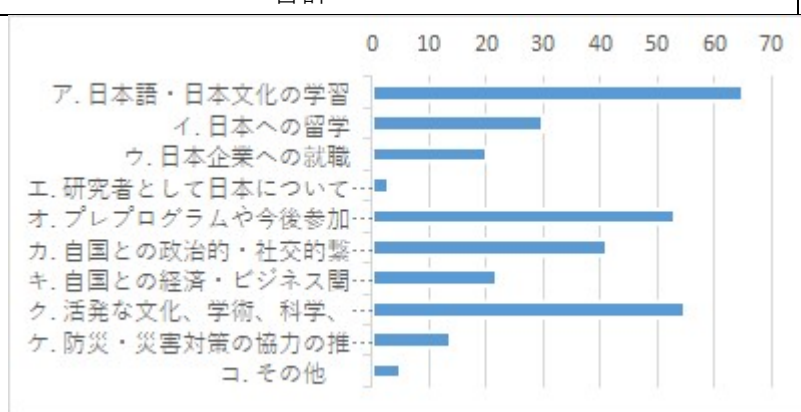
(5) 今回のプレ・プログラムで強く印象に残った内容は何ですか。(当てはまるものすべてに回答してください)

	人数
ア. オリエンテーション	33
イ. 日本と自分の国・地域についての講義・意見交換	47
ウ. テーマ/専門分野についての講義・意見交換・オンライン視察	24
エ. 訪問先地方の紹介・自治体表敬・オンライン訪問	15
オ. 東京オリンピック・パラリンピック関連情報	7
カ. 自然災害からの復興・防災対策	5
キ. SNSの発信方法の練習	6
ク. 日本人や他の参加者との意見交換・交流	63
ケ. その他	4
合計	204



(6) 現時点で、日本との関わりについて、関心があるものは何ですか。(複数選択可)

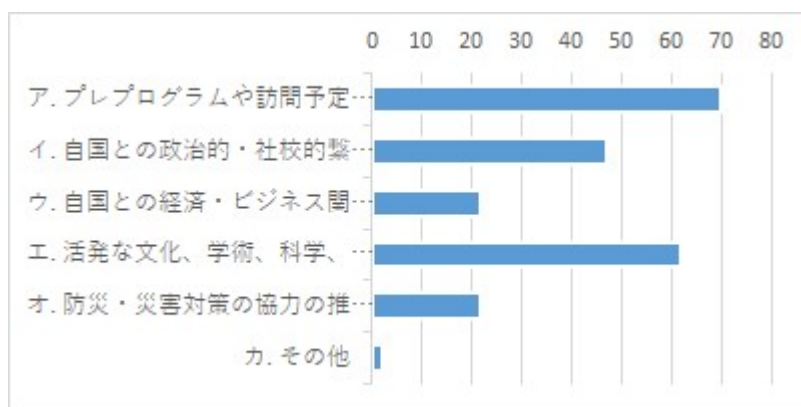
	人数
ア. 日本語・日本文化の学習	65
イ. 日本への留学	30
ウ. 日本企業への就職	20
エ. 研究者として日本について専攻	3
オ. プレ・プログラムや今後参加予定の訪問先で出会った人との繋がりを維持・強化	53
カ. 自国との政治的・社会的繋がりの強化に関する活動への参加	41
キ. 自国との経済・ビジネス関係の強化に関する活動への参加	22
ク. 活発な文化、学術、科学、スポーツ等の交流の推進に関する活動への参加	55
ケ. 防災・災害対策の協力の推進に関する活動への参加	14
コ. その他	5
合計	308



(7) 現時点で、将来、日本との関係を個人的にどのように発展させたいと考えていますか。(複数選択可)

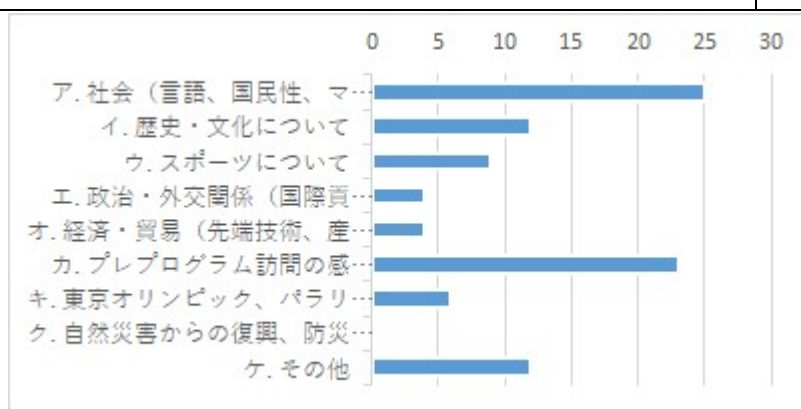
	人数
ア. プレ・プログラムや訪問予定地で出会った人との繋がりを維持・強化	70
イ. 自国との政治的・社会的繋がりの強化に関する活動への参加	47
ウ. 自国との経済・ビジネス関係の強化に関する活動への参加	22
エ. 活発な文化、学術、科学、スポーツ等の交流の推進に関する活動への参加	62
オ. 防災・災害対策の協力の推進に関する活動への参加	22

カ. その他	2
合計	225



(8) 日本の何に関心を持ち、発信しましたか。(複数選択可)

	人数
ア. 社会（言語、国民性、マナー）について	25
イ. 歴史・文化について	12
ウ. スポーツについて	9
エ. 政治・外交関係（国際貢献・安全保障等）について	4
オ. 経済・貿易（先端技術、産業、商品・サービス等）について	4
カ. プレ・プログラム訪問の感想・訪日時時の展望	23
キ. 東京オリンピック、パラリンピック関連情報	6
ク. 自然災害からの復興、防災対策	0
ケ. その他	12
合計	95



(2) 派遣プログラム（オンラインプレ派遣、）

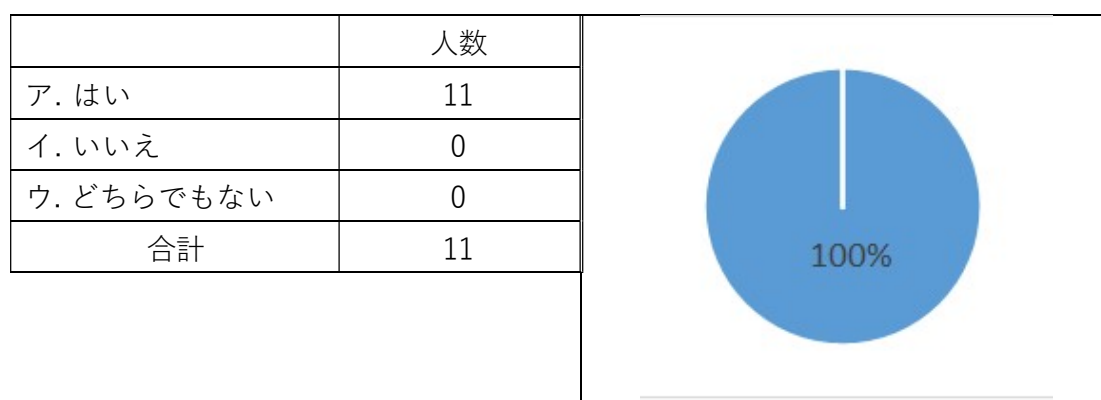
オンラインプログラム実施後にプログラムに関するアンケートを実施した。結果日本の参加者（大学生）のうち、11 の回答があった。

【学校交流後アンケート】

1.オンライン交流に関する意見

(1) コロナ禍で渡航ができない中、オンラインで海外の人と交流する機会は有効だと思いますか。

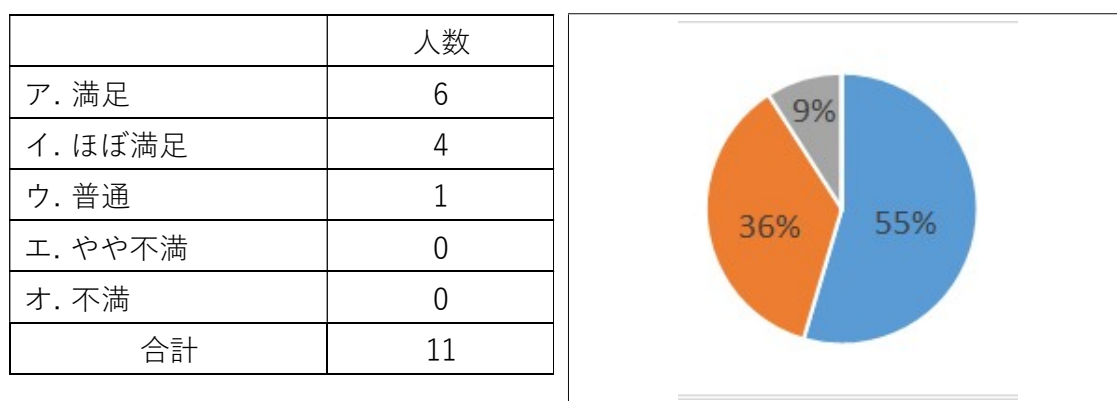
■ ア. はい ■ イ. いいえ ■ ウ. どちらでもない



【プレ・プログラムについて】

(2) プログラム内容は満足の内容でしたか。

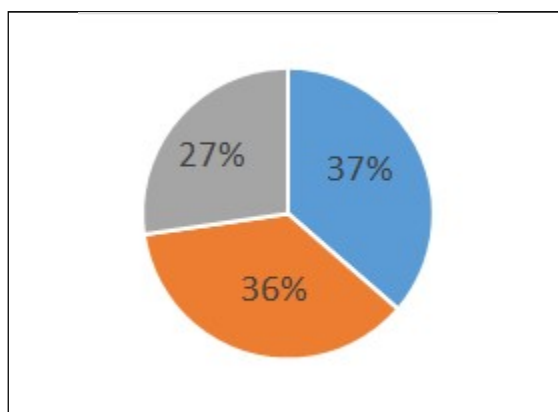
■ ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
■ エ. やや不満 ■ オ. 不満



(3) プログラム内容は訪問予定地へ渡航する前の事前学習として役に立ちましたか。

■ ア. 満足 ■ イ. ほぼ満足 ■ ウ. 普通
■ エ. やや不満 ■ オ. 不満

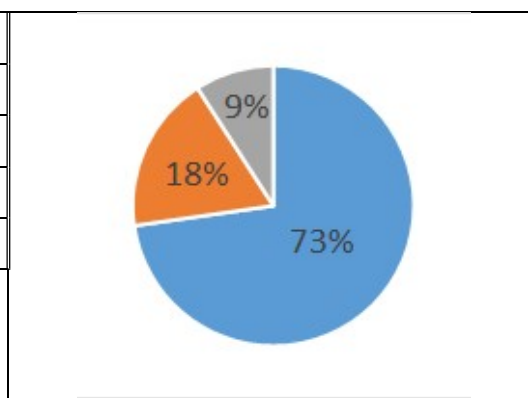
	人数
ア. 満足	4
イ. ほぼ満足	4
ウ. 普通	3
エ. やや不満	0
オ. 不満	0
合計	11



(4) 訪問予定地での日本の活動（国際貢献）やプレゼンスに対する理解が深まりましたか。

■ ア. はい ■ イ. いいえ ■ ウ. どちらでもない

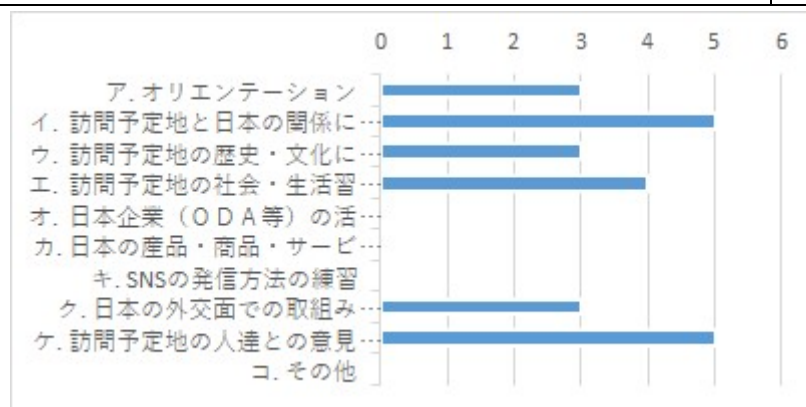
	人数
ア. はい	8
イ. いいえ	2
ウ. どちらでもない	1
合計	11



(5) 今回のプレ・プログラムで強く印象に残った内容は何ですか。（当てはまるものすべてに回答してください）

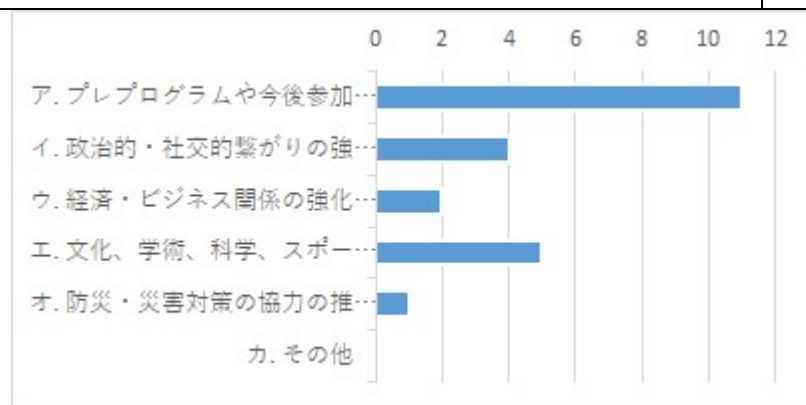
	人数
ア. オリエンテーション	3
イ. 訪問予定地と日本の関係についての講義・意見交換	5
ウ. 訪問予定地の歴史・文化についての講義・意見交換	3
エ. 訪問予定地の社会・生活習慣についての講義・意見交換	4
オ. 日本企業（ODA等）の活躍についての講義・意見交換	0
カ. 日本の産品・商品・サービスの優位性についての講義・意見交換	0
キ. SNS の発信方法の練習	0
ク. 日本の外交面での取組み（ODA・安全保障等）	3
ケ. 訪問予定地の人達との意見交換・交流	5

コ. その他	0
合計	23



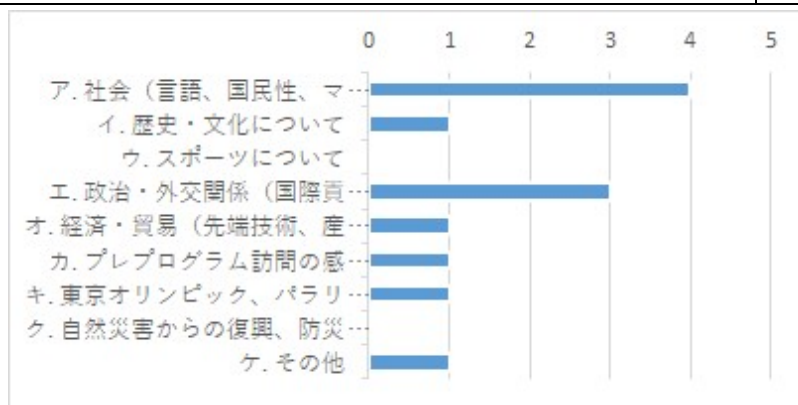
(6) 現時点で、今後、訪問地との関わりについて、どのように発展させていきたいと考えていますか。(複数回答可)

	人数
ア. プレ・プログラムや今後参加予定の訪問先で出会った人との繋がりを維持・強化	11
イ. 政治的・社会的繋がり強化に関する活動への参加	4
ウ. 経済・ビジネス関係強化に関する活動への参加	2
エ. 文化、学術、科学、スポーツ等の交流の推進に関する活動への参加	5
オ. 防災・災害対策の協力の推進に関する活動への参加	1
カ. その他	0
合計	23



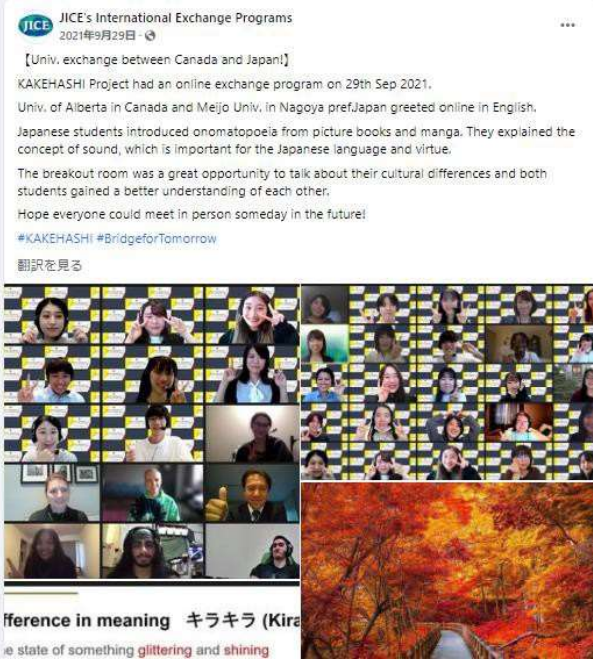
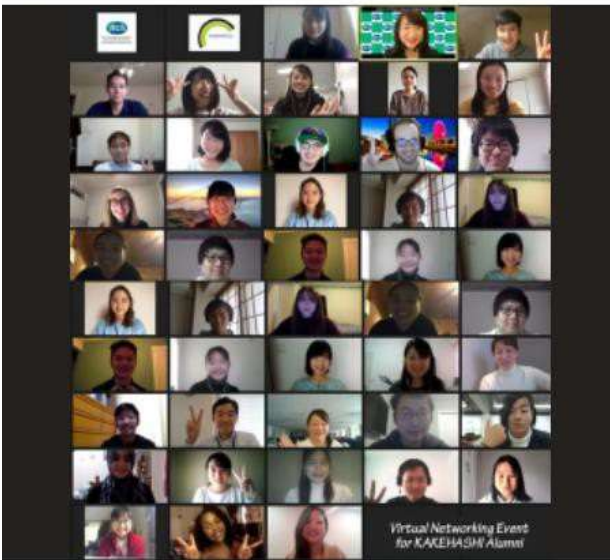
(7) 英語または訪問地の言語で発信した内容は何ですか。(複数選択可)

	人数
ア. 社会（言語、国民性、マナー）について	4
イ. 歴史・文化について	1
ウ. スポーツについて	0
エ. 政治・外交関係（国際貢献・安全保障等）について	3
オ. 経済・貿易（先端技術、産業、商品・サービス等）について	1
カ. プレ・プログラム訪問の感想・訪日時の展望	1
キ. 東京オリンピック、パラリンピック関連情報	1
ク. 自然災害からの復興、防災対策	0
ケ. その他	1
合計	12



4. 広報・フォローアップ業務

JICE 国際交流フェイスブックページにおいて、関連記事を掲載した。

 招へいプログラム実施報告(フェイスブック)	 招へいプログラム実施報告(フェイスブック)
 FU プログラム実施報告(フェイスブック)	 活躍する同窓生報告(フェイスブック)

 JICE's International Exchange Programs 2021年8月11日 【JICE KAKEHASHI Alumni in the Olympics!】 Annie Guglia, who participated in the Kakehashi Project in 2018, represented Canada in skateboarding's first Olympic Games. Annie-san, we are so proud of you! Visit her website at https://annieguglia.ca/ and see the program report at https://www.jice.org/.../2018/05/kake17insports-e.html #KAKEHASHI #Tokyo2020 #TeamCanada 翻訳を見る  ANNIEGUGLIA.CA ANNIE GUGLIA Canadian Skateboarder from Montréal	 JICE's International Exchange Programs 2021年7月1日 【JICE KAKEHASHI Alumni in the Olympics!】 Hurrah ! 3 KAKEHASHI alumni will participate in TOKYO Olympics as Olympians! ●Ms. Eleanor Harvey - Fencing https://olympic.ca/team-canada/eleanor-harvey/ ●Ms.Jacqueline Simoneau & Ms.Claudia Holzner - Artistic Swimming (Duet & Team) https://olympic.ca/team-canada/jacqueline-simoneau/ https://olympic.ca/team-canada/claudia-holzner/ They participated in the "Kakehashi Project" as a sport program in 2018. They had the opportunity to understand Japan in a wide range of areas through lectures at government ministries, visits to historical places, and exchanges with host families, etc. It is an honor and pleasure for us to be able to support them! We sincerely wish them all the best performance! Eleanor san, Jacqueline san, Claudia san, Ganbatte kudasa! !!!  OLYMPIC.CA Claudia Holzner - Team Canada - Official Olympic Team Website In 2019, Holzner fulfilled a 17-year dream of qualifying for the Olympic Games when she won t...
活躍する同窓生報告(フェイスブック)	活躍する同窓生の報道記事紹介(フェイスブック)

以上

別紙 1：報道記事

別紙 2：参加者による帰国後の発信好事例

令和2年度対日理解促進交流プログラム
「カケハシ・プロジェクト」 （カナダ）

最終事業報告書
別紙 1. 報道記事

業務実施期間 令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

令和 4 年 5 月 31 日

一般財団法人 日本国際協力センター

オンラインプログラム

1. 高校生招へい		日付	2021/6/30
媒体	札幌開成中等教育学校便り		
タイトル	カナダ・モスクロップ高校との zoom 交流！「楽しかった！」		
URL	https://www23.sapporo-c.ed.jp/sapporo-kaisei/index.cfm/12,4163,c,html/4163/20210630-175129.pdf		

わたし、アナタ、min-na No.11
 そのすがたがうれしい
 国際交流編(3)

カナダ・モスクロップ高校との zoom 交流！「楽しかった！」

[illegible]

上級生と下級生が2人1組で1000で割った余りの形式、日本にいながら海外の学生と直接交流することの出来る、同輪転を組むことのできる機会でした。

カケハタのHPにはセスクップ作製の動画コメントがあります。関連記事のコメントもぜひお見逃しな！
<https://www.asiapacific.asia-educator.com/kakehata-press.html>

【●加した年間の数】

●海外に在住している方、海外へ行く場合、学校の授業で習った英語の知識を、日本人の友人にも、友達にも教えるのも大変でした。1947年に「英語」の授業を受けた日本人は、1948年を境として、英語を教える立場になるのはほとんどなかったとされています。そのために先生と、学生さんとは日本人の間にあったのは、英語という文化や言語の壁であり、それを乗り越えるには、日本人の心と文化と世界との心と文化との間を架かす必要が生ずると感じました。

●このことが結果的に促して1948年に日本のラジオに生ずるべきは音楽の需要であり、英語の文化と日本人の心と、日本人の心と日本人の文化が結びついていくことになったと見ています。さらに、音楽と音楽産業を捉えるうえで、それは他には無い文化産業であると捉えられた。



●ある年某日から見た30日「対策」や「後回し」などの関わりについて学ぶことができた。自分では出来たか否かと測っていたことが、困難を招くと全く違うことがあった。逆に同じ経験を通して共感しあえたり、自分の常識が覆れながらも高次元としての見方を養っていることが刺激になった。

●私があまのりく考えてなかった梵作音楽の発展についてよく考えることができたしみんなの意見や考えが中心になってモスプロップ音楽を促したとすると梵作の高校との関係がより密になってほしい！早く国産に行きたい！！

●私があまのりく考えてなかった梵作音楽の発展についてよく考えることができたしみんなの意見や考えが中心になってモスプロップ音楽を促したとすると梵作の高校との関係がより密になってほしい！早く国産に行きたい！！

●モリスのゴッパの生涯は COSMAX という発酵造り薬にリウマチを癒せる世界的な活動の事について考えており、世界の広さに驚いた。

●セリと英語をうまく使えようになりたいと思って、毎日も英語を勉強するようになった。またこのような機会があれば、また参加して、先週より自分の勉強も世界にも役立つはず。

●インスタグラム、30、破内格での撮影をしてほしい！ [Instagram: kakehashi_harumi34](https://www.instagram.com/kakehashi_harumi34)

トビタテ！留学JAPAN(第7期)応募者 15 名！(##### 全国 1)

今年度の9月3日「新学」JSPA第13(第7期)の採録者 T64 名のうち、なんと平成中興華英学校が全誌に採録された15人中1人になりました。第1回4ヶ条公立学校がこれだけの採録者を世に出した、驚きです。採録された1人「香蘭園」は、JSPAの前身「新学」のJSPA-スポンサー、ゴールド・エース・トリートメント・コーポレーションのディレクター・オグサワラ・マサキによる多筆にもなっています。まだ若くして筆を執るという偉業があり、創刊号の採録者数も多筆にもなることでもあります。しかし、殆どの採録者を数回までの掲載、2回で採録のためを以て、どのように毎号に登場するにせよいかも真実に考へる必要がある、やや困難であることを私に教

今回の採用を逃した生徒も、どの生徒も真実に自分自身を見つめ、素晴らしいエントリーシートや動画等の作成を行っています。この経験は決して無駄ではありません。次へのステップに必ずなります。様々なチャンスをお待ちしています。

素晴らしいですが、生徒の皆さんがトビタテに申請するにあたり、校内でトビタテに経験者からの講演会がとてとても興味が持てたという方が多数ありました。来年度の授業へ、経験に基づいた話が聞けり、実際の進路が分り、積極的に行動する生徒が増えていく期待、満ちます。 <https://tobitate.world.jp/news/detail/?id=394>

※「月入」をせかい部「活動のボランティア活動実況レポート」でもあつたから「さんざんがズバ」！があつた。
本校も卒業生が「月入」のボランティアとして活動中「さんざんがズバ」があつた。

力才受·位立萬經醫藥聖明會

カナダ・コロムビア学区17でノーバー・カ
ンディ(詩人)の教育委員会の代表として
明会を行います。カナダの公立学校は
公立学校より費用が安く、国際的な教育、
タララウンドがあります。カナダの公立
への留学に興味のある人は、留めてこ
加来！(対象は5~9年、短期生は後日
来、との条件あり)

- ・日程 7月7日(水) 12:30~13:00
- ・場所 三井物産館6 (ランタナ会館)
- ①コナツタムサシってどんなところ?
- ②留学生へのプログラム紹介
- ③プログラム開始前夜・昼食など
- ④その他、質問コーナー

日本製を愛用する大勢の中に重宝するもの

西宮南フェリス学院大学と東海大学アンタイス大学の
日本語を学ぶ大学生が、大学紹介ビデオを日本
語で作成しました。日本語学習者の大学の学生を助
けてくれるお手伝いをしてくれる人を募集しています。
このお話を得られたい方、お申し込み、参加者
のコメントに返信してもらう予定です。頑張って日本語を
学んでいる大学生に私たちの助けられることも多々ある

異種のある人は、1階国際交流コーナーにある案内のQRコードからピアスを登録、スプレッドシートに手続を書く(相手のところ自分の名前を記入)。1月5日までには手続をキャンセル支援員・国際担当へ。

※1月からは違う大学の学生との交流を開始する予定です。

Onlineで留学費用・奨学金などが検索されています。

イベントに参加した3年生の声を聞きます。みなさんもぜひトライしてみませんか？

今回 AFB 若手学生交流イベントに参加して、様々な国の留学生に会えたのが楽しかったです。僕は、ヨーロッパにある学校と今年度はアフリカは 1980 年までは同じ国に属して、現在は互いの言語が異なる国々で構成されています。国境がなくなる国際結婚した夫婦の子供は、父はアメリカで母は日本で育ちましたという子と結婚する人もいます。アフリカから移住して来た方々にアフリカの文化について「書かされた」知識がほとんどありません。アフリカは、決して豊かではない国々です。イベントを通して「書かされた」知識がほとんどありません。アフリカは、決して豊かではない国々です。本記事でもその内容が詳しく紹介されていると思います。特に「アフリカ」で検索すると、フィッシャー博士、オーストラリア、セネガルの様々な国の歴史や文化が詳しく紹介されています。留学の目的はいろいろありますが、国境を越えて交流する機会が非常に多いと思います。また国際的な交流ができる機会があれば、世界はもっと良くなると思います。

2. ジャパンボウル招へい		日付	2021/7/7
媒体	大系タイムズ		
タイトル	オンラインで国際交流 白馬高北米の「日本通」高校生と		

3. カナダ 大学生招へい（オタワ大学、トロント大学）（東北大学・神田外国語大学）		日付	2021/9/28
媒体	東北大学 HP		
タイトル	【報告】対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト（カナダ）」オンライン交流会に本学学生が参加しました		
URL	https://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/activity_report_2021/		

2021.09.28(月)

【報告】対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト（カナダ）」オンライン交流会に本学学生が参加しました

日本政府が推進する国際交流事業である「対日理解促進交流プログラム KAKEHASHI Project」（運営：一般財団法人日本国際協力センター、Asia Pacific Foundation of Canada）の一環として、2021年9月23日（木）、本学協定校であるカナダ・トロント大学、オタワ大学の学生15名、本学の学生21名がオンライン交流会に参加しました。

トロント大学Philip Lipsky教授(Chair in Japanese Politics and Global Affairs, and Director, Centre for the Study of Global Japan, Munk School of Global Affairs & Public Policy, University of Toronto)からの挨拶の後、参加学生は小グループに分かれてSDGs（持続可能な開発目標）や気候変動、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が先進国や開発途上国にもたらす格差などについて英語で意見交換を行いました。

参加学生は、新型コロナウイルス感染症や気候変動、教育などに関するそれぞれの国の現状を共有し、持続可能で公正な社会を作るために両国の青少年が対話を続けることが重要であることを再確認しました。また、交流会の最後には、村田篤史在カナダ日本国大使館一等書記官兼広報文化センター長より気候変動やエネルギー問題に対する両国の取り組みについて説明が行われました。



イベントの様子

■対日理解促進交流プログラムとは

「対日理解促進交流プログラム」は、日本政府が推進する国際交流事業で、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国地域との間で、将来、各界にて活躍が期待される優秀な人材を招へい・派遣するものです。

青少年交流を通じて、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、また、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、日本の外交基盤を強化することを目的としています。カケハシ・プロジェクトは、「対日理解促進交流プログラム」のうち北米を対象とした交流事業です。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う渡航制限のため、オンライン形式での交流を行いました。



リンク：https://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ep/page23_001476.html

■お問合せ

高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター

特任准教授 坂本 友香

 yuka.sakamoto.a3@tohoku.ac.jp （*を@に置き換えてください。）

4. 0929 大学生招へい（アルバータ大学）（名城大学）	日付	2021/10/4
媒体	名城大学 HP	
タイトル	外務省・対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」で外国語学部生とカナダの大学生がオンラインで交流	
URL	https://www.meijo-u.ac.jp/news/detail_26603.html	

トップページ／ニュース

外務省・対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」で外国語学部生とカナダの大学生がオンラインで交流

2021/10/04

ツイート

いいね

外国語学部は9月29日、外務省の対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」（一般公募）で、カナダのアルバータ州立大学（THE世界大学ランキング2022 世界第125位）と英語を用いてオンラインで学生交流を行いました。

外国語学部は今年5月にも同プログラムでアメリカのノースウェスタン大学（THE世界大学ランキング2020 世界第22位）とのオンライン交流を実施しており、今年度は2回目の参画となります。同プロジェクトは、親日派・知日派を発掘することを目的とした国際交流事業で、一般財団法人日本国際協力センター（JICE）が企画運営しています。

本来は、日本と外国から相互に学生を派遣して対面で交流しますが、コロナ禍とあって遠隔実施。しかし、遠く離れていてもZoomを使った英語での会話は弾み、名城大生にとっては、留学とは違った形での異文化理解と自文化理解を深化させ、自分の考えを英語で伝える実践の学修と成長の機会を得ることができました。

プロジェクトには名城側から3年生28人と、アルバータ州立大学から日本の歴史・文化を専攻する18人が参加。当日はJICEによる趣旨説明から始まり、朝8時30分から10時まで分刻みでプログラムが展開されました。



参加者のスクリーンショットによる記念撮影（一部加工しています）



視察する小原章裕学長

名城側はPicture Bookを題材に3つのプレゼンテーション



名城側は、ナゴヤドーム前キャンパスの社会連携センターshakeに集まりました



お別れのあいさつをする外国語学部生たち

名城側は、ナゴヤドーム前キャンパス西館の社会連携センターshakeに集まりました。西尾由里教授ゼミの伊藤有沙加さんと高橋一見さんの司会進行のもと、柳沢秀郎教授ゼミの齊田梨緒さんによる開会の言葉でスタート。アイスブレイクで互いの緊張をほぐした後、名城側が絵本 (Picture Book) を題材にした話題提供プレゼンテーションを3つ発表しました。

柳沢秀郎教授ゼミは「Picture Bookと現代日本文化(広告・ファッション・ゲーム)」です。「浦島太郎」「かぐや姫」「桃太郎」「鶴の恩返し」など日本人の親しんできた昔話が、現代のテレビコマーシャル、ファッション、ゲームなどにどのような形で表象化されているかを紹介しました。

西尾教授ゼミは「Picture Bookと現代日本文化(漫画・アニメ)」。

こちらは、日本の漫画やアニメに流れる自己犠牲 (Self-sacrifice) の精神にスポットを当て、「周囲への配慮から日本人が自分の考えや感情を表さない時、私たちは皆さんに、その心根にある自己犠牲の価値に気付いてほしい」と、日本人の精神性を訴えました。

池田弥准教授ゼミは「Picture Bookと現代日本文化 (オノマトベと現代日本語使用)」についてです。日本語は英語より動詞が少ない半面、オノマトベ (擬音語・擬態語) が豊富であることを前置き。オノマトベによる具体的で多様な表現を、「キラキラ」と「ピカピカ」を例に紹介し、日本語学習における絵本の活用方法を示しました。

名城大生たちは各ゼミで役割分担しながらプレゼンテーションを実施し、これを基にカナダの学生たちとグループディスカッションが行われました。

総括は名城大生とアルバータ州立大生がそれぞれ1人ずつ行いました。池准教授ゼミの齊藤汰貴さんは「貴重な、忘れがたい挑戦の機会を与えていただき、ありがとう」とコロナ禍での外国人学生との交流に感謝。アルバータ大生のクリスティーン・シングソンさんは「コロナに気を付けてください。次は会う時は直接話したい」と返しました。

アルバータ州の外務省在カルガリー日本総領事館からのあいさつ、参加者のスクリーンショットでの記念撮影で濃密な交流は幕を閉じましたが、引き続いて両学生たちは、バーチャルミーティングアプリを利用して、英語で自由に交流を楽しんでいました。

3ゼミ一丸の準備と実践に高評価

齋藤さんは終了後、「会話が途切れないか心配したが、カナダの学生も趣味や食文化、日本の景色などを話題にして会話を進めようとしてくれたので、スムーズにグループディスカッションができた。学生も先生もゼミ一丸となって頑張った成果だと思う。留学が中止になり、英語圏の人たちとの会話がなかなかできなかったので、遠隔でも生の英語が聞けてよかった」と話しました。



バーチャルミーティングアプリを利用して英語で交流



英語でのやり取りに関与する小原孝裕学長

アルバータ州立大学からも終了後に「名城大生の英語力とプレゼンテーションにはとても感銘を受けました。素晴らしい学生たちです」とのコメントが届きました。

外国語学部では、今後もこのような海外との協働学修をはじめ、学部で精力的に取り組んでいる学部独自のオンライン学修プログラムであるCLAB (Collaborative Learning Across Borders) プログラムなどさまざまな教育研究活動を、みなさまに発信してまいります。

ノースウェスタン大学とのオンライン交流

プレスリリース



右端が西尾由里教授

5. 高校生招へい		日付	2022/3/11
媒体	宮崎日日新聞		
タイトル	宮崎学園高生とカナダの生徒英語でオンライン交流		
URL			

2022年(令和4年)3月11日 金曜日 宮崎日日新聞

宮崎学園高生とカナダの生徒 英語でオンライン交流

カナダの生徒とオンライン交流した
宮崎学園の生徒

宮崎市・宮崎学園高(佐藤洋校長、864人)の特進科2年生45人は9日、日本の高校に当たる、カナダのモスクロップ中等教育学校の生徒25人とオンラインで交流した。外務省の国際交流プログラムの一環として実施。生徒たちは英語で楽しく語らった。

ビデオ会議システム「Zoom(ズーム)」で両校

宮日農業技術賞
綾の松井農園に
賞状と盾を贈呈

第64回宮崎日日新聞農業技術賞の露地野菜部門に選ばれた綾町北俣、有限会社松井農園の松井道生代表(61)に9日、本紙担当者が賞状と盾を手渡された。

町・綾町でトップランナー

活動の様子などを紹介した。後半は少人数の班に分かれ、タブレット端末を使い会話を交わした。ある班は「宮崎の有名な植物は」との質問に「フエニックスやブルーゲンヒリアが親しまれている」と、写真を見せながら説明。身ぶり手ぶりを交え

不織布マスクを
児童生徒に配布

宮崎市

子どもの新型コロナウィルス感染が拡大していることを受け、宮崎市は小中学校を通じて不織布マスクの配布を進めている。約3万2千人の児童生徒を対象に1人5枚ずつ配布。同市教委は「感染防止を図り、正しい着用も呼び掛けていきたい」としている。

同市教委によると、配布に関する通知は各学校へ2月28日に出した。各校は保管分や、新たに購入したマスクを配布する。また、3月中旬に1箱50枚入りの不織布マスク3箱を各学級に置くという。

同市によると、コロナ感染第6波では「学校・教育施設」のクラスター(感染者集団)が相次いでおり、10代以下の感染割合は7日時点で全体の29%となっている。

▼募ってまち

◎島津寛次郎を語り継ぐ集い参加者 12日午後13時、宮崎市民会館4階大会議室。明治期に活躍し、西南の役戦死した佐土原藩・島津寛次郎の生誕170周年を記念し、歴史に詳しい同市佐土原町の住民らが集結する。参加無料。「宮崎の明治維新を語り継ぐ集い」実行委員会が主催。090-1114-1204

◎宮崎空襲を語り継ぐ集い参加者 13日午後13時、宮崎市民会館4階大会議室。実行委員会。大分・津城空襲の1945(昭和20)年3月18日に宮崎市と新豊町であった空襲の体験が当日の場を語り、来場者と交流す

6. 日本語弁論大会成績優秀者招へい（神奈川大学） 日本語学習者招へい（神奈川大学）		日付	2022/3/28
媒体	神奈川大学 HP		
タイトル	対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」オンライン交流会を実施しました		
URL	https://www.kanagawa-u.ac.jp/international/news/details_23263.html		

2022.03.28

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」オンライン交流会を実施しました



国際センターでは3月15日（火）に、「カケハシ・プロジェクト」の一環として、本学学生と北米の日本語弁論大会で入賞した学生および、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）学生とオンライン交流会を実施しました。

同プログラムは日本政府が推進する国際交流事業の1つで、日本とアジア大洋州、北米、欧州、中南米の各国・地域との間で、対外発信力を有し将来を担う人材を招へい・派遣しています。人的交流を通じて、政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策に関する対日理解の促進を図るとともに、親日派・知日派を発掘し、日本の外交姿勢や魅力等について被招へい者・被派遣者自ら積極的に発信してもらうことで対外発信を強化し、日本の外交基盤を強化することを目的としています。カケハシ・プロジェクトは、「対日理解促進交流プログラム」のうち北米を対象とした交流事業で、現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う渡航制限のため、渡航前にオンライン形式での「プレプログラム」を実施しています。

プレプログラムの一環として実施した今回のオンライン交流会では、本学より24名の学生が参加し、交流会前半には本学給費生2名より「神奈川大学」と「横浜市」について発表が行われました。交流会の大部分を占めたブレイクアウトルーム内での交流パートでは、各機関からの参加学生が、政治や、将棋、落語、日本画、宗教観等の日本文化に関する発表をブレイクアウトルーム内で行い、発表後にそれぞれのテーマについて各学生が活発に意見交換を行い、国際交流や日本文化に対して理解を深めました。

コロナ禍により、オンラインでの実施となった本交流会ですが、参加した学生の中には交流会途中で連絡先を交換している学生も見受けられました。今後コロナ禍が収束した際にはカケハシ・プロジェクト関連のプログラムを対面で実施する予定としていますので、今回の交流会には参加することができなかった学生の皆さんにも、ぜひその際はご参加いただき、国際交流や、日本文化について関心をより高めていただきたいと思います。



令和2年度対日理解促進交流プログラム
「カケハシ・プロジェクト」 （カナダ）

最終事業報告書

別紙 2. 参加者による発信好事例

業務実施期間 令和 2 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日

令和 4 年 5 月 31 日

一般財団法人 日本国際協力センター

1. カナダ高校生招へい（モスクロップ中等教育学校）		日付	2021/6/15
タイトル	学校交流についての発信 (Facebook)		



2021 年 6 月 15 日

学校交流についての発信 (Facebook)

先週、北海道の市立札幌開成中等教育学校とブリティッシュ・コロンビア州バーナビーのモスクロップ中等教育学校の 47 名の生徒が、カケハシ・プロジェクトのオンライン交流を 2 回行い、交流を深めました。生徒たちは、男女平等、パンデミックの日常生活への影響、文化的な誤解、ソーシャルメディアが 10 代の若者に与える影響など、様々なトピックについて話し合いました。参加して下さった皆様、ありがとうございました。またすぐにお会いできることを楽しみにしています。

2. ジャパンボウル招へい（白馬高校）	日付	2021/7/14
タイトル	学校交流についての発信 (Facebook)	

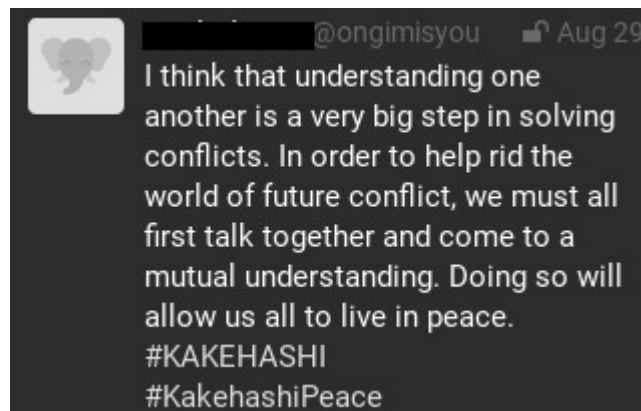


2021 年 7 月 14 日

学校交流についての発信 (Facebook)

7 月 5 日、日本、米国、カナダの学生が白馬高校とカケハシ・ジャパンボウルのバーチャル交流を行いました。参加した 2020-2021 年のオンタリオ州とブリティッシュ・コロンビア州のチャンピオンの皆さん、おめでとうございます。また、2021 年のチャンピオンの素晴らしいプレゼンテーションにも感謝します。

3. 日本語学習者招へい（神奈川大学）		日付	2021/9/18
タイトル	学校交流についての発信 (Twitter)		



2021 年 9 月 18 日

学校交流についての発信 (Twitter)

互いを理解することは、紛争を解決する上で非常に大きな一歩だと思います。将来、世界から紛争を無くすためには、まず共に話し合い、相互理解を得なければなりません。そうすることで、私たち全員が平和に暮らすことができます。

4. 大学生招へい（オタワ大学、トロント大学）（東北大学、 神田外語大学）	日付	2021/9/23
タイトル	学校交流についての発信(Twitter)	

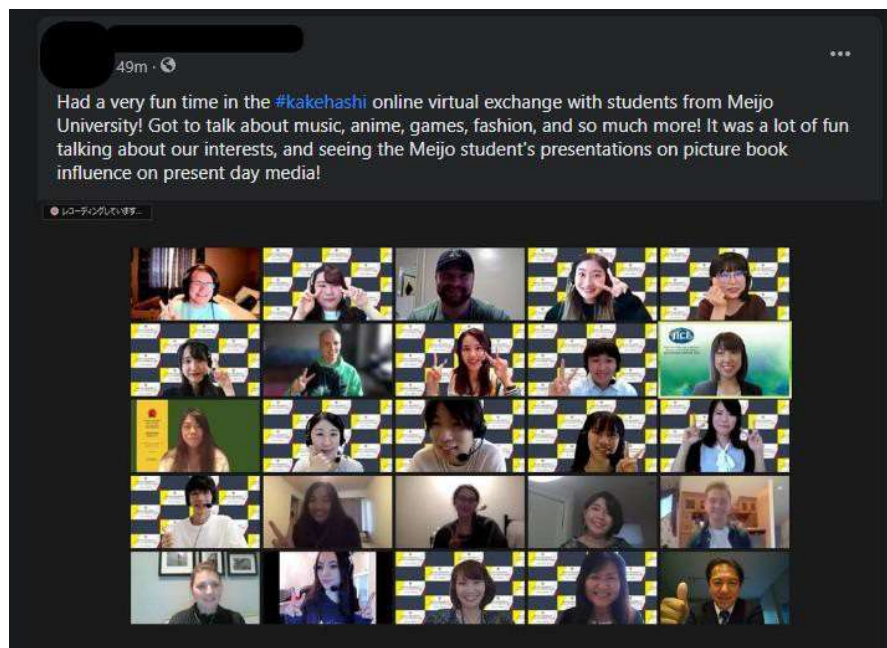


2021 年 9 月 23 日

学校交流についての発信(Twitter)

カケハシ・プロジェクトに参加し、楽しかったです。参加できたことがとても嬉しく、イベントのすべてのプログラムに感謝いたします。カナダと日本がより良い未来をリードする名誉ある地位になることを願っています。

5. 大学生招へい（アルバータ大学）（名城大学）		日付	2021/9/29
タイトル	学校交流についての発信 (Facebook)		



2021 年 9 月 29 日

学校交流についての発信 (Facebook)

名城大学の学生さんたちと、カケハシオンライン交流会でとても楽しい時間を過ごしました！音楽、アニメ、ゲーム、ファッションなどについて話しました。お互いの興味について話したり、名城大学の学生による絵本が現代のメディアに与える影響についてのプレゼンテーションを見たりと、とても楽しかったです！